

健康経営実践企業に聞く



今年も有志を募り、保土ヶ谷区主催の「第28回かろがもファミリーマラソン大会」に参加

健康で楽しく働ける場に



株式会社ヨコレイ
代表取締役

あり い きよし
有井 清氏

少子高齢化社会で労働人口が減少する中、企業にとって「一人当たりの生産性をどのように効率よく上げるか」は、大きな課題だ。そこで各企業が力を入れているのが、従業員の健康を管理する取り組み。近年、国や自治体だけでなく、市民も注目しており、企業の価値や社員のモチベーション向上につながる働きかけとして重視されている。従業員とその被扶養者の健康づくりを経営戦略の一環として捉え、前向きに取り組む県内の企業をシリーズで紹介する。

——ヨコレイはどのような事業をされていますか。

私たちの会社は、法人に向けて建物の空調や給排水などの設備工事を主軸として行っております。また、空調や水回りのプロとして、フランチャイズの便利屋「Benu」横浜千丸台店を運営しています。庭の手入れからハウスクリーニングまで、地域の暮らしをサポートしています。

——健康経営に取り組まれたきっかけは、なんだったのでしょうか。

ベテランの社員が2人続いで、病気で長期間休むようになったことです。彼らに話を聞くと、「仕事で忙しくて健康診断を受けられなかった」と話し、自己責任では危ないなと感じました。そこから会社として取り組むようになり、2007年からは毎年「健康セミナー」を、社員とご家族や友人、協力会社の方を対象に行っています。

——具体的には、どんなことをされてきましたか。

まず行ったのが、喫煙に対する取り組みでした。当時は私も喫煙者でしたが現職に就いた翌年には社内を禁煙にしています。これは、取引先で聞いた講演会の話が気付きになったからです。喫煙する理由として、「ストレスの軽減」がよく挙げられますよね。でもそれは、中毒状態の身体にニコチンが供給され安心するだけで、悩みは解決されない、という内容でした。たしかにそうだと実感し、その日から煙草をやめました。社員とのコミュニケーションツールとして活用している「社

長のメールマガジン」も、禁煙の啓蒙活動に活用してきました。その頃は社員の半数が喫煙者で、呼び掛けにより何名かは喫煙をやめても、新しく入社した社員が煙草を吸うという繰り返しでした。状況を打破するため、2008年から喫煙者の採用を辞めることにしました。実際にその年から面接では「喫煙の有無」を確認しています。「では、煙草をやめます」と宣言して、入社してくれた方が、今も活躍しています。ブレずに続けている成果があり、現在は喫煙者がゼロになりました。

他にも、健康面を考え身体を鍛えることを推奨する「マッスル手当」や「よこはまウォーキングポイント」への参加、健康アンケート、朝食バーと夕食提供などを行ってきました。昨年、「健康経営推進チーム」が発足したことで、健康への関心がより高まっているのを感じます。こうした地道な活動の積み重ねで、2016年に始まった「横浜健康経営認証」において2018年はAランクでしたが、今年、最上位ランクのAAAを取得でき嬉しく思っています。

——今後の展開をお聞かせください。

今までフィジカルのことをやってきたので、今後はメンタルヘルスもやっていこうと、毎月、保健師の先生にご指導いただいています。効果が女性に好評です。会社の規模として法的義務はないのですが、ストレスチェックもやっていきたいと思っています。みんなが健康で笑顔で働ける会社が第一です。

健康経営を知ろう!

「健康経営」とは?

企業が経営の一環として、従業員の健康増進に向けた取り組みを行うことにより、生産性の向上・組織の活性化・生活の質の向上・医療費削減などが見込まれます。企業の中で、責任者や部署を定めて、健康管理を行うことがこれからの企業経営にとってますます重要になっていくものと考えられます。

アクサ生命は
健康経営の普及拡大を
応援しています

※「健康経営」はNPO法人健康経営研究会の登録商標です。

Present by



アクサ生命